

Simulink 機能確認 WS 新機能紹介

2020年8月25日 MathWorks Japan アプリケーションエンジニアリング部

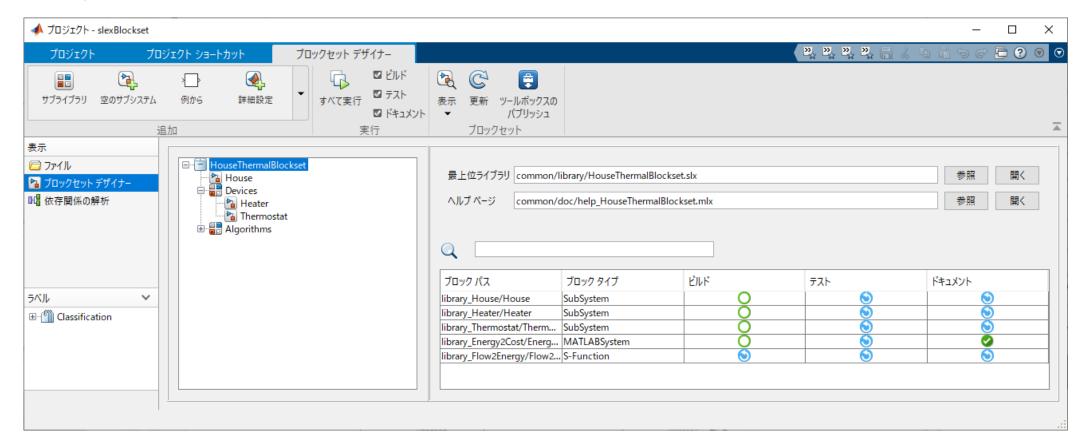


Blockset Designer

R2019b

自作のブロックセットを作る際に、すべての作業を一つのUIでできます

- Simulink プロジェクトで自作ブロックセットの構築作業を管理できます。
- ブロックのビルド、テスト、ドキュメントについて進捗状況を一覧管理します
- 完成後のパブリッシュもボタンをクリックするだけで完了します

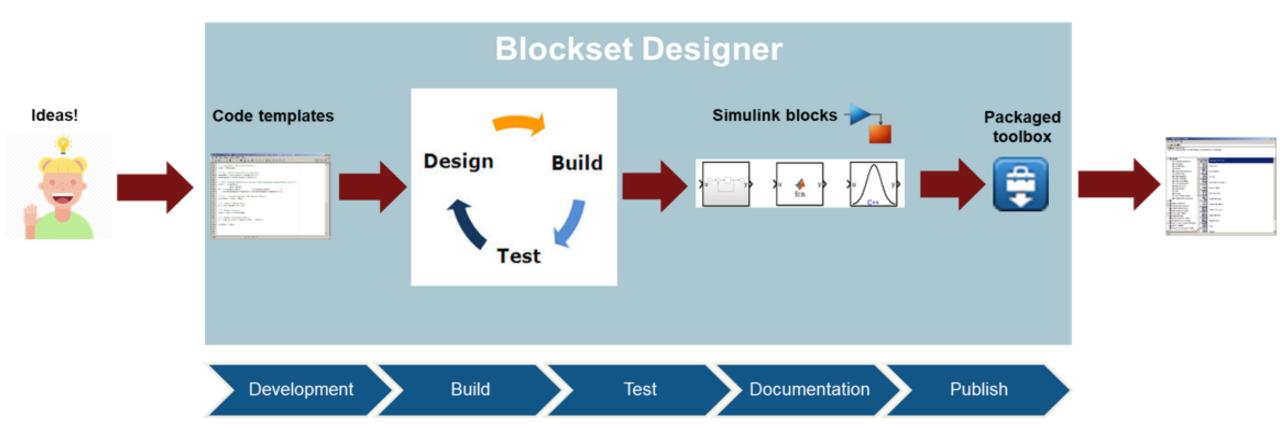




Blockset Designer

ワークフローのイメージ





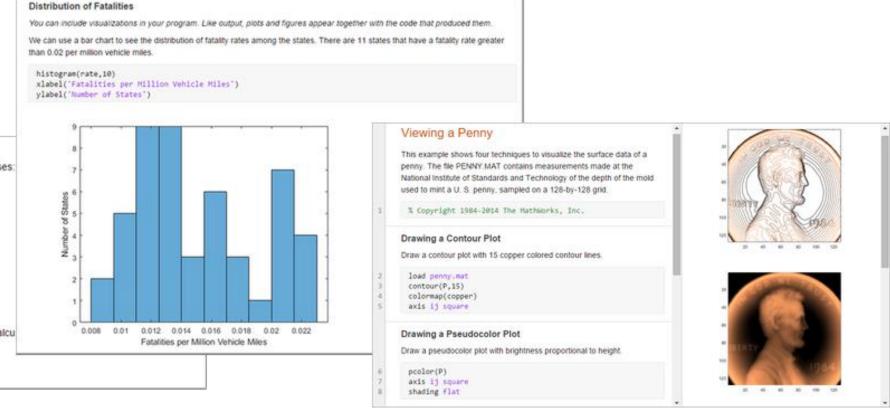


ライブエディター、ライブスクリプトとは

単一の環境でMATLABコードと書式設定されたテキスト、数式、画像を組み合わせたドキュメントを作ることができます。これをライブスクリプトと呼んでいます。

ライブスクリプトを作るためのエディターがライブエディターです。

全てのツールボックスがライブエディター内で利用でき、結果を可視化することができます。



Homework

Use the techniques described above to complete the following exercises:

Exercise 1: Write MATLAB code to calculate the 3 cube roots of i.

% Put your code here

Exercise 2: Write MATLAB code to calculate the 5 fifth roots of -1.

% Put your code here

Exercise 3; Describe the mathematical approach you would use to calcu complex number. Include the equations you used in your approach.

(Describe your approach here)



ライブエディターにおける制御・同定タスク

制御システム設計・解析

Convert Model Rate

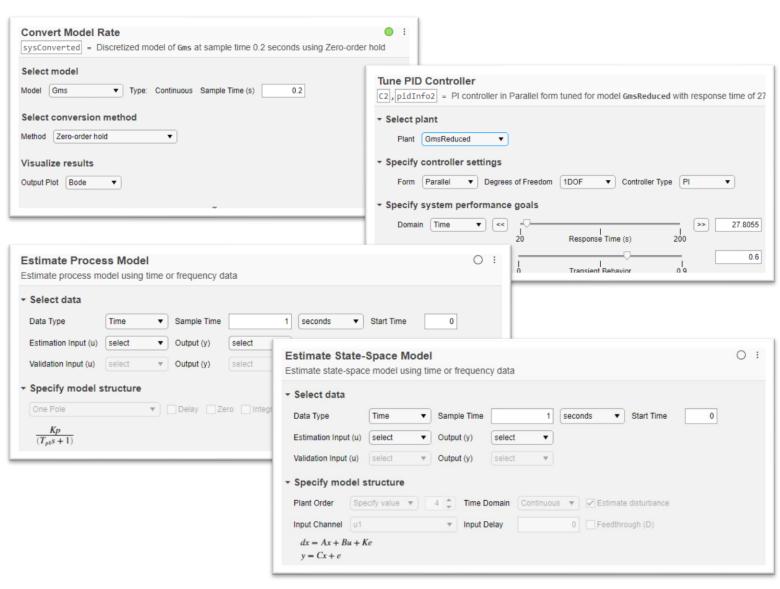
Reduce Model Order

Tune PID Controller

システム同定

Estimate Process Model

Estimate State-Space Model

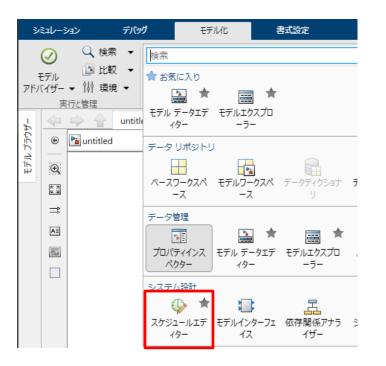




スケジュール エディタ

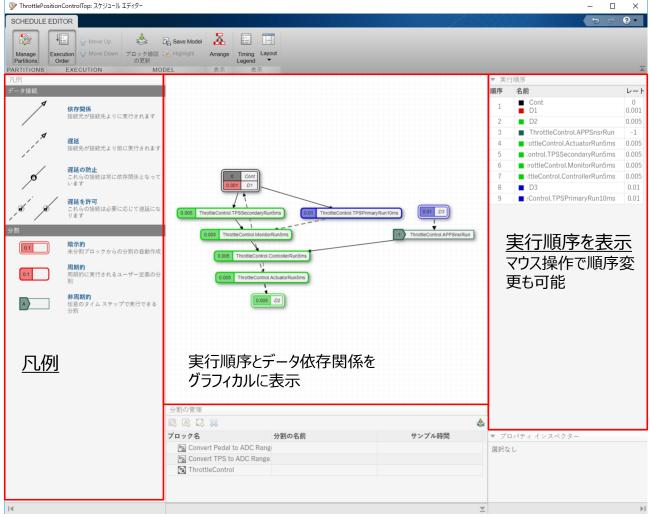
モデル内の関数呼び出し実行順序をグラフィカルに表示および編集が可能

- シミュレーションとコード生成のための関数の実行順 序をスケジュールします。
- スケジュールされるパーティション(モデル内のコンポーネント)を定義しデータとの依存関係を明示し編集できます。





スケジュールエディタ

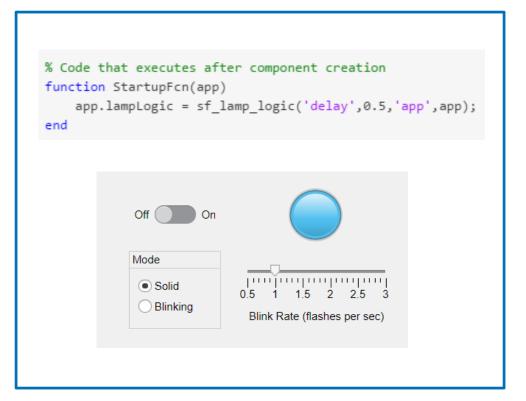




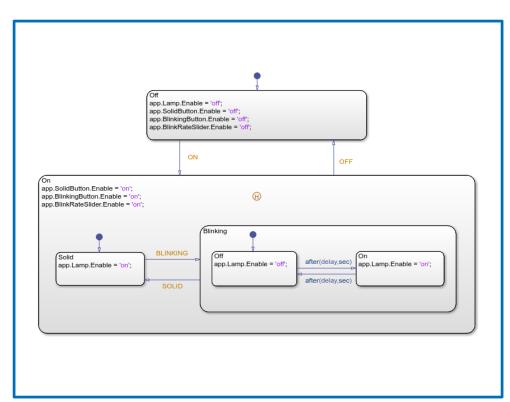
Stateflow for MATLAB

R2019a

MATLABプログラムから状態遷移図・フローチャートを呼び出し可能になります







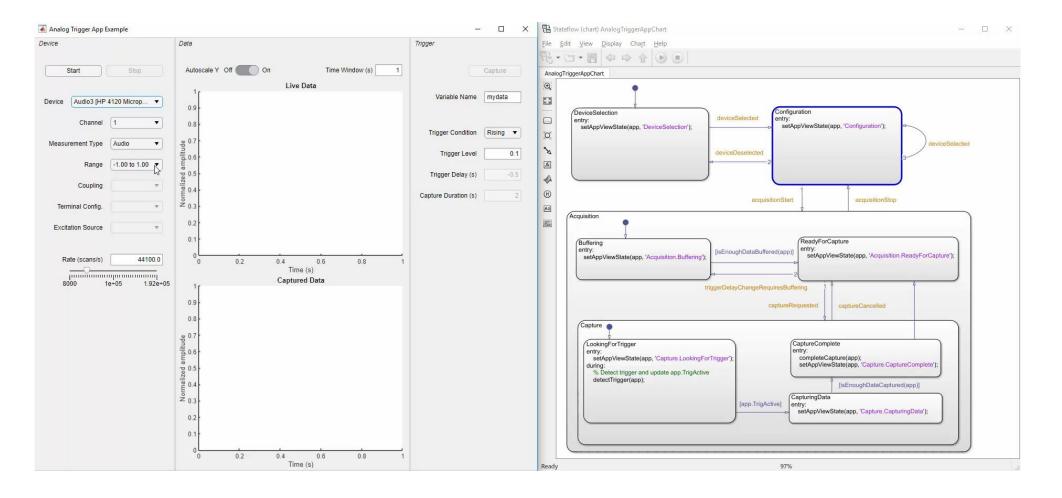
MATLABプログラム / GUI

Stateflowチャート (.sfxファイル)



こんな方におススメ① GUIアプリ開発・テストアプリ開発

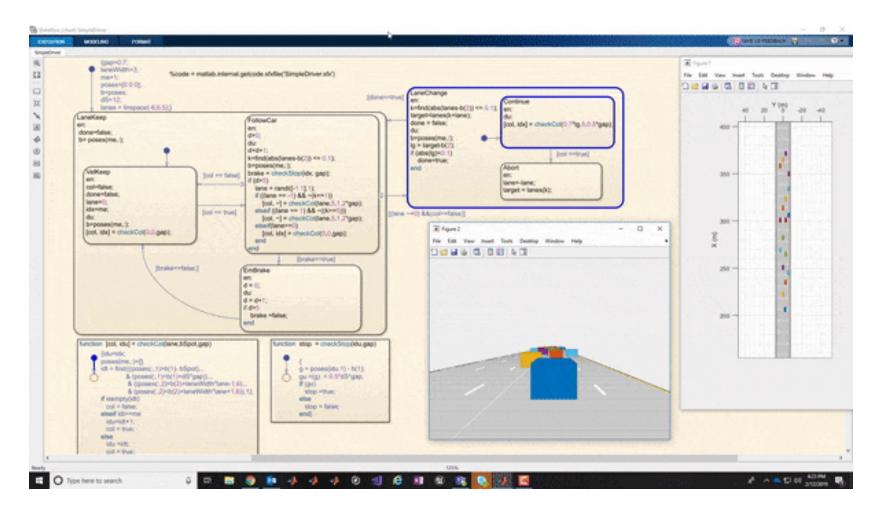
- App Designer / GUIDE で作成したGUIと連携できます
- デバイスと接続したテスト環境構築にも便利です(トリガをかけて~秒間測定する、等)





こんな方におススメ② ロボティクス/自律システム開発

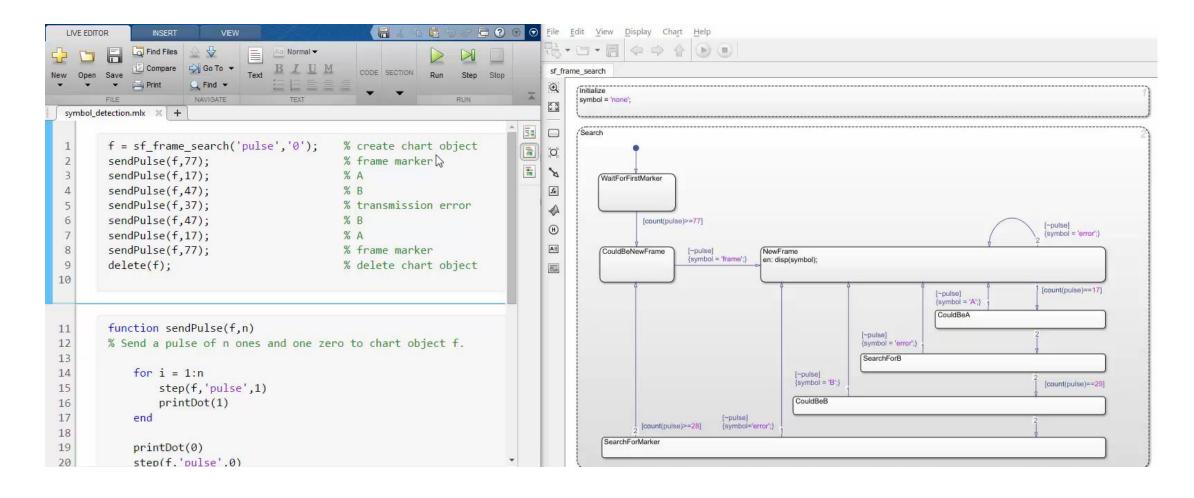
- 各種条件判定や遷移処理の記述に便利です
 - 軌道計画、軌道追従、障害物回避、異常判定、等





こんな方におススメ③ 通信・センサーデータ解析、通信プロトコル開発

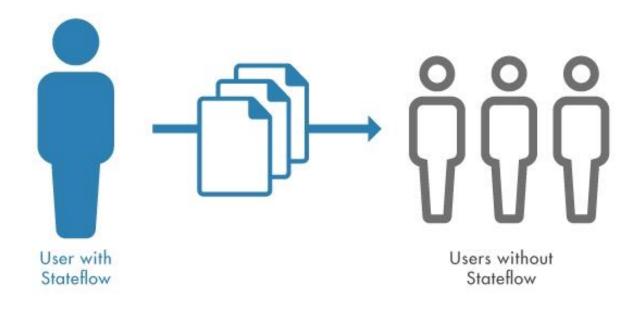
- 通信・センサー等から得られたストリームデータの解析
- 通信プロトコルのモデル化





.sfxファイルの配布、コンパイル、コード生成対応について

- .sfxファイルを実行するだけであれば、Stateflowが無い環境でも可能です。
- .sfxファイルのチャート内容を表示・編集するにはStateflowが必要です。
- MATLAB Compilerによるスタンドアロンアプリ開発、および MATLAB Coderによるコード生成にも対応しています。





Stateflow for MATLAB 導入に伴い変化する点/しない点

• 変化する点

 R2019aからStateflowの前提製品がMATLABのみとなります (従来はSimulinkも必要でした)

変化しない点

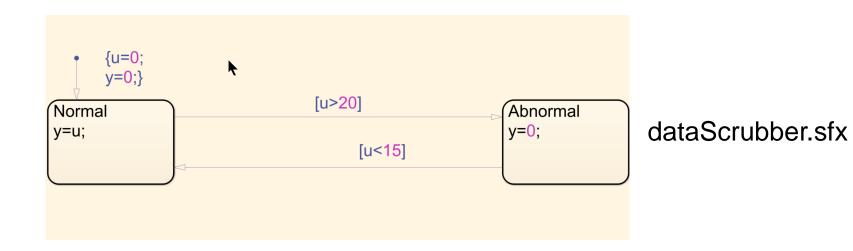
- Simulink上でStateflowを使用する方法は従来通りです
- Simulinkユーザーに.sfxファイルの利用を強制するものではありません



MATLABから.sfx Stateflowチャートを実行する方法

- .sfx StateflowチャートはMATLABオブジェクトとして実行できます
- チャート内ローカルデータの値を変更可能です

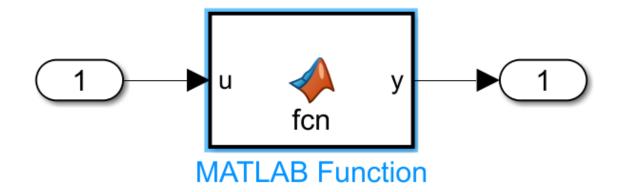
```
myCleanData = dataScrubber(); % Stateflowチャートオブジェクトの作成 for i=1:length(inData) step(myCleanData, 'u', 'inData(i)); % Stateflowチャートを1回実行 end
```





Simulinkから.sfx Stateflowチャートを実行する方法

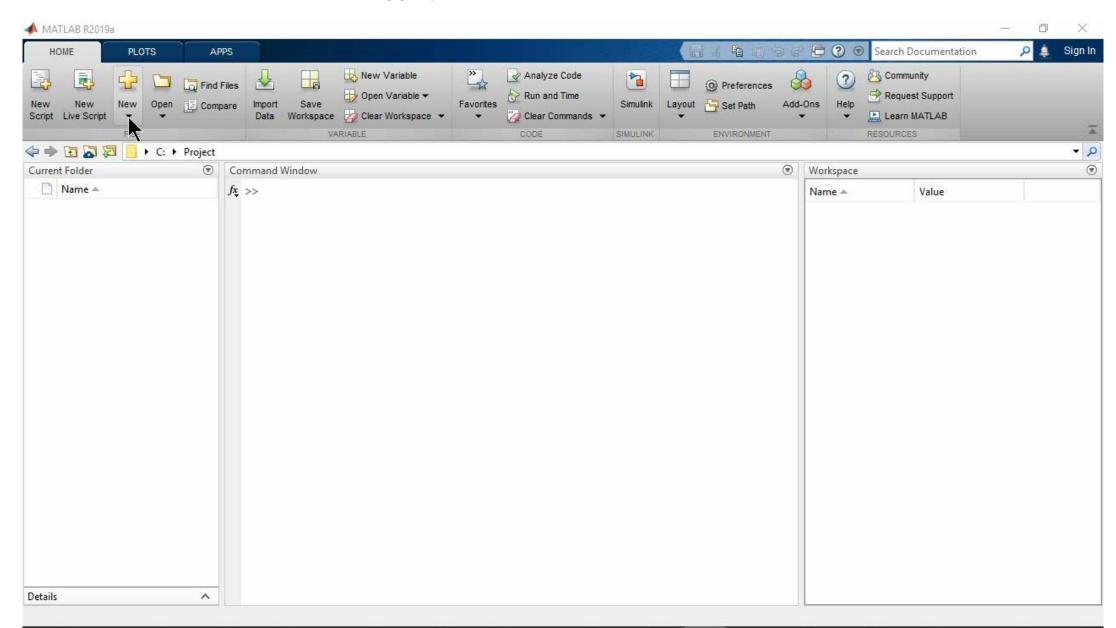
R2019a時点では、MATLAB Functionブロックから呼び出して利用します



```
step(my_chart, 'u', u)
y = my_chart.y;
end
```

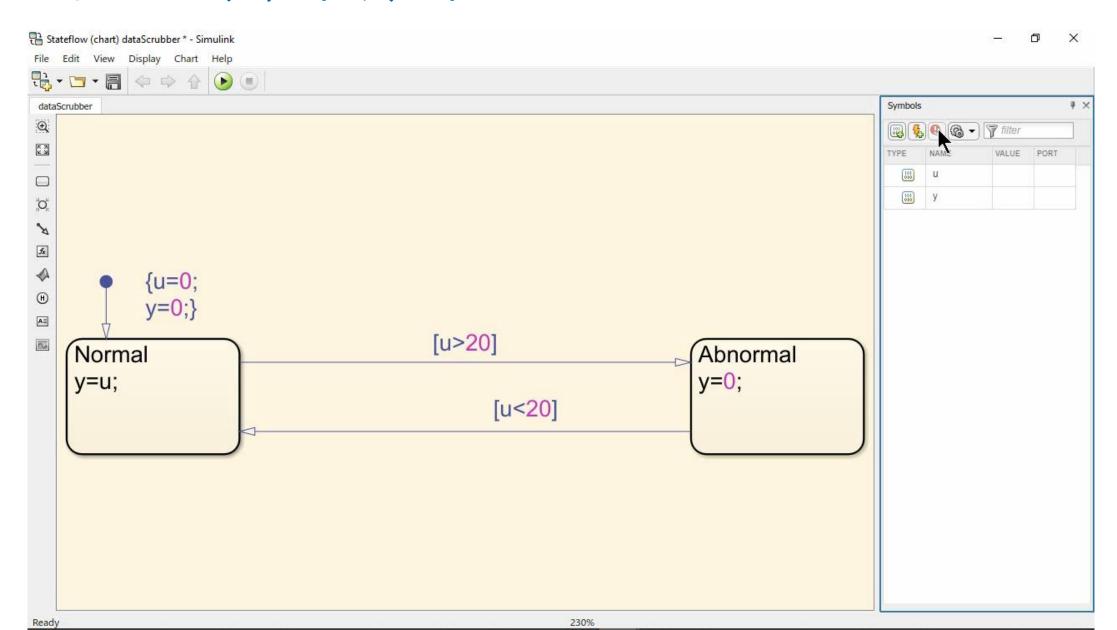


.sfx Stateflowチャートの作成



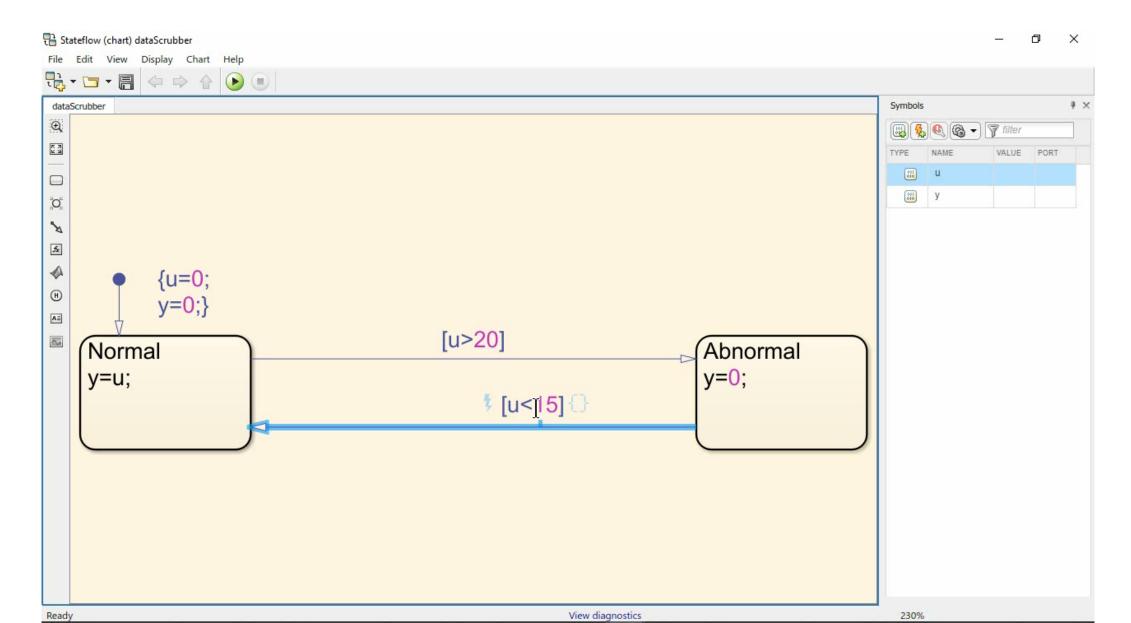


.sfx Stateflowチャートのテスト





MATLABから .sfx Stateflowチャートを実行



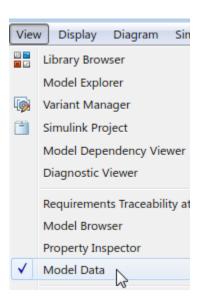


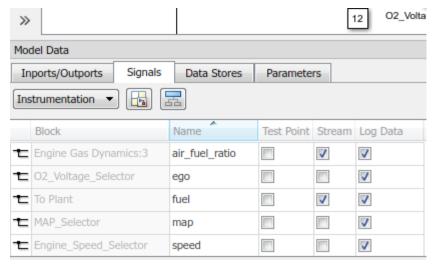
モデル データ エディター

モデルデータのプロパティをSimulink エディター内のテーブルを使用して設定

- モデルエクスプローラーに類似した情報を 簡単に一覧で確認することが可能
- 信号の名前を変更したり、テストポイント、ログ、 ストリーミングのチェックも変更可能
- リストされた項目を選択すると対応箇所を ハイライト表示









検索

R2016b

"Ctrl + F"で行う検索機能が改善しました。

[デモ]



